

平成24年度 第1回 千葉県スポーツ推進審議会 会議録の概要

開催日時 平成24年11月15日(木) 14時～17時
会 場 千葉県庁中庁舎9階 企画管理部会議室

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 金澤 篤志 高橋 直子 畑佐耕一郎 花岡 伸和 浪越 一喜
御手洗尚樹 柳川 尚子

<オブザーバー> (敬称略50音順)

齊藤 利明 萩原 出

<出席事務局職員>

千葉県教育委員会			教 育 長	瀧本 寛
健康福祉部 健康づくり支援課			主 査	磯辺 邦彦
同 障害福祉課			副 主 幹	木川 康弘
商工労働部 観光課			副 主 査	鈴木 真
教育振興部 生涯学習課			副 主 幹	田中 憲生
教育振興部 体育課			課 長	石渡 敏温
教育振興部 体育課	ちばアクアラインマラソン準備室		副参事兼室長	由利 聡
同 同 同	同 同		副 主 幹	角田 康治
同 同 同	同 同	学校体育室	主幹兼室長	平島 昭一
同 同 同	同 同	同 同	主席指導主事	牧田 正彦
同 同 同	同 同	スポーツ振興室	主幹兼室長	山崎 成夫
同 同 同	同 同	同 同	班 長	岩沢 謙太
同 同 同	同 同	同 同	同 同	岩沢 謙太
同 同 同	同 同	同 同	同 同	加藤 俊文
同 同 同	同 同	同 同	同 同	加藤 俊文
同 同 同	同 同	同 同	同 同	猪狩 恵司
同 同 同	同 同	同 同	同 同	猪狩 恵司
同 同 同	同 同	同 同	同 同	宮崎 孝男
同 同 同	同 同	同 同	同 同	宮崎 孝男
同 同 同	同 同	同 同	同 同	山内 和幸
同 同 同	同 同	同 同	同 同	山内 和幸
同 同 同	同 同	同 同	同 同	黒川 昭宏
同 同 同	同 同	同 同	同 同	黒川 昭宏
同 同 同	同 同	同 同	同 同	長岡 知
同 同 同	同 同	同 同	同 同	長岡 知
同 同 同	同 同	同 同	同 同	岩倉 貞実
同 同 同	同 同	同 同	同 同	岩倉 貞実

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員の委嘱、委員紹介
- 3 役員を選出
- 4 千葉県教育委員会教育長挨拶
- 5 議事 (議長：荒川会長)

(1) 報告事項

- ① 平成24年度各種大会結果について
 - ちばアクアラインマラソン実施概要
 - 第67回国民体育大会(ぎふ清流国体)
 - 第12回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)
 - 全国高等学校総合体育大会
 - 全国中学校体育大会
- ② 「千葉県体育・スポーツ推進計画」推進事業の概要について

(2) 審議事項

- ① 「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価を行うための指標(案)
- ② 「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」(案)

- 6 閉会

〈議事〉

(1) 報告事項

①平成24年度各種大会の結果報告

○ちばアクアラインマラソン実施概要

資料2の 1 ページをお開きください。

アクアラインの魅力を全国にPRしようと3年間準備をしてきました。当日は、心配した風の影響もなく、約14,000人の方に千葉の魅力満載のコースを走っていただきました。本審議会委員の方にも、デモンストレーションとしてランナーの一番前を走っていただきました。コースは、日本陸連の測定で23m長いだけとお褒めの言葉をいただきました。

当日は、晴天で気温が上がったため、ランナーが体調を崩しリタイヤが多くなり、バスの収容や救護所の対応が追いつきませんでした。海上部の爽快な条件から地上部に降りたあと気温が上がり、体力の消耗が激しかったことが原因の一つと考えています。沿道では、地元木更津市の児童生徒をはじめ、およそ31万人がランナーの背中を押してくれました。招待ランナーの川内選手や市原出身の猫ひろし選手のほか多くのタレントも参加し、大会を大いに盛り上げていただきました。選手内訳の多くは関東近県ですが、47都道府県すべてからエントリーをいただきました。

教育長の話にもありましたが、全国紙3紙の1面にランナーで埋まるアクアラインの写真が掲載されるなど全国へのアピール効果は十分だったと思います。次回開催については、先の課題も含めて、今大会の検証をしっかりと行った上で検討したいと思います。今後も本県スポーツの推進に寄与していきます。ありがとうございました。

○第67回国民体育大会（ぎふ清流国体）

資料2の 4 ページをお開きください。

今大会の千葉県選手団の成績は、男女総合成績7位、女子総合成績7位であり、「ゆめ半島千葉国体」の成果をしっかりと引き継ぎ、男女総合については6年連続、女子総合については4年連続の入賞となりました。都道府県順位の詳細については、5ページをご覧ください。優勝は男女総合、女子総合ともに地元、岐阜県でございます。6ページは、競技別の総合成績です。25番柔道、32番山岳の2競技が優勝したのをはじめ、男女総合で13競技、女子総合で9競技が8位以内に入賞するなど、まさに、「チームちば」の力が結集された大会となりました。

○第12回全国障害者スポーツ大会（ぎふ清流大会）

次に、資料2の 7 ページをお開きください。

第12回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」ですが、10月13日から15日の3日間、岐阜県で開催され、本県からは、選手49名、役員43名、総勢92の選手団を派遣しました。結果は、金メダル48個、銀メダル17個、銅メダル8個、合計73個のメダルを獲得し、金メダル獲得数は、全国67選手団中、第4位の好成績を収めました。

○全国高等学校総合体育大会

次に、資料2の 8 ページをお開きください。

全国高等学校総合体育大会について、でございますが、7月28日から8月20日までの24日間、「北信越かがやき総体」として、新潟県を中心に、北信越5県で開催されました。千葉県からは、69校、715名の高校生が参加しました。資料のとおり、ベスト8以上の入賞者数は、1の団体成績では14、2の個人成績では67、合計81となり、全国で比較しますと、12ページの入賞者全国比較一覧にあるように、第7位と健闘しました。

詳細については、資料2の 9 ページに、団体入賞者一覧、10・11ページに、男女個人入賞者一覧がございます。

○全国中学校体育大会

次に、資料2の13ページをお開きください。

全国中学校体育大会の結果でございますが、本大会は、8月17日より開催されました。各種競技の入賞者ですが、陸上競技は、千葉県総合スポーツセンターで開催され、市原・ちはら台南中女子が、4×100mリレーで第1位に輝きました。その他、体操競技は東京都で行われ、床の部で、船橋法田中、谷川選手が第1位、新体操も東京開催で、個人総合トリボンの部で、千葉真砂中、皆川選手が第1位に輝きました。14ページは、本県選手団入賞者数の推移、15ページは、全国中学校体育大会への出場者数の推移です。

【報告事項 ① 平成24年度各種大会の結果についての質問等】

- 委員 ・ちばアクアラインマラソンについて報告がありました。何か御意見や御質問がございますか。実際に参加された委員さんもいらっしゃいますが、いかがだったでしょうか。
- 委員 ・残念ながら車イスの部は、レース形式では認められませんでした。白バイを先導する形になってしまいましたが、貴重な体験となりました。沿道の方の声援は素晴らしく、コースについても世界の大会にはなかなか見られないもので、ぜひ来年の開催と車イスの部実施をお願いします。
- 委員 ・大会結果について報告がありました。何か御意見や御質問はございますか。
- オブザーバー ・今年は、全国高等学校総合体育大会での入賞者が減ってしまったが、国体にも選手を送ることができました。若手の指導者育成に力を入れて、躍進に力をいれたい。再来年は南関東大会ということで競技に参加するだけでなくサポートしている生徒も支援できるようにしたい。
- オブザーバー ・全国中学校体育大会は、関東ブロック開催ということで大成功に終わりました。多くの感動があり、「スポーツは人を動かしドラマを作るのだ」と改めて思いました。成績は例年並みの10位ということでさらなる成長を目指したい。

②「千葉県体育・スポーツ推進計画」推進事業の概要

本県では、旧スポーツ振興法に基づき、昭和36年に県スポーツ振興審議会を発足させ、昭和37年より、5か年間隔で体育・スポーツ振興計画を策定し、第10次の計画より、知事部局の健康福祉部とも連携し、健康づくりの視点を盛り込み計画を策定してきました。

この3月に、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、本県の体育・スポーツ振興条例に基づき、平成24年度から5年間を見据えた体育・スポーツの方向性を示すものとして、お手元に配布いたしました、第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定しました。

本計画は、「生涯スポーツの推進」など5つの柱を掲げ、基本理念である「すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合うスポーツ立県ちば」の実現を目指すものです。

本計画の取組の特徴ですが、概要版、ピンク色で塗りつぶした箇所で、

1点目としまして、柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」のところです。児童生徒の体力・運動能力の向上を図る上で、幼児期の運動習慣が基礎となることから、外遊びを中心とした「幼児期における体力づくり」への取組です。

2点目としましては、柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」のところです。プロスポーツチームやトップアスリートとの交流で、県民を元気にしたり、子どもたちがスポーツへの夢やあこがれを抱けるよう、スポーツの持つ力を活用し、地域の活力づくりへの取組です。

こうした取組の進捗状況の把握や点検・評価に際しましては、関係部局と連携を図りながら「P

DCAのサイクル」を基に、計画に掲げた施策の「目標」、「具体的な取組」などについての成果や課題等を県民や有識者に評価していただくとともに、実施状況等を県教育委員会が取りまとめ、千葉県スポーツ推進審議会に諮り、計画の有効性を高めながら、次年度以降の取組に反映させて推進することとしております。

そこで、本計画の進捗状況の把握や点検・評価をお諮りする本審議会委員さんにつきましては、5本の各柱についての知識や状況等について詳しい方々を委員に委嘱させていただきました。中でも本計画の新たな取組である幼児期における体力づくりの推進については、現在幼稚園で体力づくりを推進されている理事長兼園長さんを委員にお願いし、プロスポーツとの関わりについては、プロスポーツの経営者としての立場からトップアスリートによる様々な社会貢献活動を推進しておられる柏レイソル社長さんに委員を委嘱させていただいたところです。

計画策定後の具体的な取組でございますが、それぞれ各事業を通しまして、体育・スポーツを推進しているところでございますが、新たな取組の主なものといたしまして、7月に開催しました「本県競技力向上推進本部事業総会」におきまして、柏レイソルの社長さんに「J2からJ1チャンピオンへ」と題して講演をいただき、プロスポーツとの連携の第一歩を踏み出したところでございます。

資料2の17ページをお開きください。

9月には、総合型地域スポーツクラブ相互の連携を深めることで活動の充実を図るとともに、多世代で一緒に楽しめるニュースポーツの体験を通し、広く県民にクラブの魅力にふれていただくことをねらいとしまして、「スポネットちば2012」と称しまして、総合型地域スポーツクラブ交流大会を開催いたしました。

資料2の21ページをお開きください。

また、多くの県民がスポーツに親しむきっかけとなり、「スポーツ立県ちば」実現の一助となるよう、毎年10月を「スポーツ立県ちば推進月間」と定め、スポーツに参加する場所、機会、情報の提供を行いました。この期間中には、「スポーツで元気いっぱい明日の千葉」のスローガンのもと、県総合スポーツセンターや国際総合水泳場の無料開放、イベント情報等を提供するとともに、スポーツ関係団体と連携して関連イベントを開催したところでございます。

今後、本審議会からも御意見をいただきまして、「スポーツ立県ちば」の実現を目指し、スポーツの推進に取り組んでまいりたいと考えています。

【報告事項 ② 「千葉県体育・スポーツ推進計画」推進事業概要についての質問等】

- 委員 ・推進計画ですが、本計画は「幼児期の体力づくり」や「プロスポーツ選手の能力活用」、特にプロスポーツ選手という言葉は初めて入ってきたかと思えます。このように第10次までとは違う特色ある計画で4月から計画を推進していますが、これについて御意見・御質問ありますか。幼児期の体力づくりの指導をされている立場からいかがですか。
- 委員 ・運動習慣化のための指導者研修と保護者への指導の充実と言いますが、親御さんの多くは、子どもと運動したいという気持ちがありますから、どんどん先導してほしい。
- ・幼稚園には体育はありません。5領域の中の「健康」という領域になります。基本的な生活習慣を身につけることにおいて礼儀正しさが重要で「健全な精神に健全な肉体が宿る」という考えがある通り、幼児の健康は精神面から始まります。イベントも大事だが、5領域を重視したものを期待します。
- 委員 ・推進計画はスタートしたばかりです。今おっしゃられたことへも取り込めることがあれば取り込むという対応も考えていくことと思えます。プロスポーツとの関わりではいかがですか。

委員 ・プロスポーツとの関わりから言いますと、我々柏レイソルも地域密着型のクラブです。しかし、スケジュールもありまして、なかなかできないこともあります。プロスポーツは、ラグビーやバスケットなど他のスポーツのチームもありますので、活用していただければと思います。

委員 ・確かにプロとアマの間の交流が盛んになってきているので、この計画を通してどう融合していけるかが課題ではあります。

報告事項は以上です。

【審議事項 ①「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価を行うための指標（案）について】

今年度は、本計画実行1年目として、計画の進捗状況の把握と点検・評価を実施いたします。5つの柱それぞれに「目標」を掲げ、施策を推進することとしています。

柱1の「生涯スポーツの推進」については、成人の週1回のスポーツ実施率を参考指標とします。現在本県では、36.8%（第42回県政に関する世論調査報告・平成23年度）で、平成28年度に向けて、60%達成を目指しております。

柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」については、小学生の千葉県体力・運動能力調査における平均点とし、平成28年度には、50点達成を目指しています。

柱3の「競技力の向上」については、国民体育大会都道府県対抗8位入賞を目標としております。今年度の「ぎふ清流国体」では、6年連続入賞を果たしております。

柱4の「スポーツ環境の整備」については、計画策定時には具体的な数値目標を設定していませんでしたが、今回、総合型地域スポーツクラブ会員数を参考指標に設定いたしました。総合型地域スポーツクラブには、「拠点施設の確保」、「指導者の養成・確保」、「クラブの育成・支援」のためのシステムなどさまざまなスポーツ環境の整備が必要になるため、これを参考指標に位置付けました。平成23年3月31日現在、県下54市町村中、31市町に59クラブが設置されており、総クラブ会員数は15,667名です。今後も未育成の24市町村に1クラブの創設を目標に、平成28年度に向けて、会員数22,000名を目指してまいります。

柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」では、今回実施を予定しておりますアンケート調査による県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへの参画意欲の割合に設定することを提案します。参画意欲につきましては、「する」・「みる」・「ささえる」といった、スポーツのそれぞれの立場、役割においてスポーツ大会・イベントへの関わりへの意欲を見とる指標です。「ちばアクアラインマラソン」、「サイクルツーリズム」など県内各地で千葉の魅力を十分に発信したスポーツ大会やスポーツイベントが開催されることで県民の参画意欲も高まってくると思います。目標値にいたしましては、今回のアンケート調査実施の数値をもとに判断していきたいと考えております。

以上が基本施策の5つの柱の目標達成のため参考とする指標として提案いたします。

○ 下位指標について

10月に第1回ワーキング部会を開き、各基本施策の目標達成のために参考とする下位指標を検討し、本審議会委員の皆様にはヒアリングを行っている段階です。では、各基本施策に紐づく各施策の目標を達成するためのそれぞれの下位指標について、説明いたします。

柱1の「生涯スポーツの推進」では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を平成23年度現在の36.8%から、28年度までに60%達成を目指し、

(1)「健康・体力づくりを意識したスポーツ活動の推進」においては、成人の週1回以上のスポーツ実施率の各世代別を調査する。

- (2)「高齢者のスポーツ推進」においては、介護予防トレーニングセンター利用者数を調査する。
- (3)「障害のある人のスポーツ推進」においては、生涯スポーツレクリエーションセンター利用率と指導者の養成数や障害のある人のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設の利用者数や障害スポーツ指導員の養成者数を調査する。

これらについて調査し、各施策や事業の成果を評価していく際に活用していくこととしたい。

柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」では、小学生における千葉県体力・運動能力テストの平均点を平成23年度の49.3点を28年度までに50点まで引き上げることを目指し、

- (1)「幼児期における体力づくりの推進」については、幼児の外遊び時間を調査する。
- (2)「教科体育の充実」においては、アンケート調査における体育授業を「好き」と答える割合を調査する。
- (3)「児童生徒の体力の向上」においては、千葉県運動能力証の交付における小学校5・6年生、中・高校生の合計点がA段階の児童生徒の割合を調査する。
- (4)「運動部活動の充実」においては、中・高校生の運動部活動への加入率を調査する。
- (5)「子どもの体力向上に向けた食育の推進」においては、アンケート調査における朝食を「必ず食べる」と答えた児童・生徒の朝食摂食率を調査する。

これらについて調査し、各施策や事業の成果を評価していく際に活用していくこととしたい。

柱3の「競技力の向上」では、国民体育大会における都道府県対抗8位入賞達成を目指し、

- (1)「選手の育成・強化、指導者の養成・確保」においては、国民体育大会における少年種別の順位で、8位以内入賞の状況を調査する。
- (2)「競技力向上のための環境整備」においては、競技用具整備の実績や状況を調査する。
- (3)「スポーツ医・科学の積極的な活用」においては、ちばジュニア強化事業へのトレーナー派遣要望の実績や状況を調査する。
- (4)「組織・調査等の充実」においては、強化活動視察の実績や状況を調査する。

これらについて調査し、各施策や事業の成果を評価していく際に活用していくこととしたい。

柱4の「スポーツ環境の整備」では、総合型地域スポーツクラブの会員数、平成23年度末現在、15,667名を28年度までに22,000名以上にすることを目指し、

- (1)「人づくりの推進」においては、県が主催する指導者養成講習会で養成した指導者数累計数の現状値を調査する。
- (2)「施設の再整備と有効活用」においては、耐震化・老朽化への改修状況、県立体育施設の年間利用者数や学校体育施設開放率を調査する。
- (3)「システムづくりの推進」においては、総合型地域合スポーツクラブ設置率及び会員数を調査する。

これらについて調査し、各施策や事業の成果を評価していく際に活用していくこととしたい。

柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」では、県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへの参画（する・みる・ささえる）意欲の割合をアンケート調査の現状値から、28年度までの達成目標値を設定し、

- (1)「プロスポーツを活用したスポーツの推進」においては、アンケート調査によるスポーツ選手的能力活用事業の実績や状況、プロスポーツへの関心度を調査する。
- (2)「豊かな自然を生かしたスポーツイベントの活用による千葉の魅力発信」においては、アンケート調査で地域によるスポーツ大会・イベント等の開催実績・状況や県内で開催されるスポーツ大会・イベント情報提供への満足度を調査する。
- (3)「国体を契機としたスポーツの拠点づくり」では、アンケート調査による地元開催大会の必要性を調査する。

これらについて調査し、各施策や事業の成果を評価していく際に活用していくこととしたい。
以上でございます。皆様の忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

【審議事項 ① 点検・評価を行うための指標（案）についての質問等】

- 委員 ・5本の柱にそれぞれの施策があります。5年の間にどのように変化していくかの指標が示されている訳ですが、いかがですか。
- 委員 ・生涯スポーツの推進についてですが、成人の週1回以上のスポーツ実施率は、どのようなデータですか。世論調査ですか。全国のものですか。
- 事務局 ・(第42回)県政に関する世論調査(平成23年度)によるデータです。
- 委員 ・いろいろなデータがありますが、平成20年度までは、国は成人の週1回のスポーツ実施率50%が目標でした。千葉県も達成していたと記憶していますが。今回の世論調査の数字だと36パーセントとあり、千葉県は低いのでしょうか。
- 事務局 ・平均的な数値です。決して低いものではありません。
- 事務局 ・10年後は全国で65%を、千葉県では平成28年度までに60%を目指しています。
- 委員 ・全国的には国の目標に達していないところが多いのです。以前の調査だと50%を超えているとのことでした。
- 事務局 ・データの取り方が違うのだと思います。
- 委員 ・どこを対象とするのかで違ってきます。前回は、問題ないという報告ででした。
- 委員 ・(小学校における新体力テスト平均点の)49.3点という数値はどんな数値なのでしょうか。36.8%は、成人の週1回のスポーツ実施率とわかりました。
- 事務局 ・千葉県教育振興基本計画(平成22年3月)策定の際に、健康や体力の向上についての目標として、千葉県体力・運動能力テストにおける小学校1年生から6年生までの平均値49.5点を目標値にしました。
- 委員 ・どうして点数がつくのでしょうか。
- 事務局 ・8種目80点満点でテストを実施しています。
- 委員 ・49.3点が現状で、50点にするには大変なのでしょうか。
- 事務局 ・体力・運動能力テストは、小学校6年生まで48項目あり、男女で96項目となり、千葉県は全国値と比べて、その内86項目が上回っています。本県は、かなり高い位置にあると思います。
- 委員 ・資料があれば後で見せてください。
- 事務局 ・はい。小学校5年生だけの調査でいくと全国で5番程度の結果となっています。
- 委員 ・国体よりもいい成績ですね。
- 委員 ・49.3点を0.いくつをあげるのは大変ということですか。ここ数年はどうですか。
- 事務局 ・平成21年度は49.0点、平成22年度は49.1点、平成23年度も49.1点です。そして、今年度は49.3点と向上傾向です。
- 委員 ・高齢者のスポーツ推進の指標について、介護予防スポーツセンターは、要介護者やリハビリの方が使うため、施設利用者を指標とするのはどうかと思います。当財団で行った調査でも、高齢者の方々が非常に多くの種目を、さまざまな志向で取り組んでいる様子がわかりますので、高齢者のスポーツは介護予防のためと狭めず、高齢者の実施しているスポーツ種目の広がり、実施頻度の向上といった質的指標や、シンプルに年代別にして65歳以上のスポーツ実施率を調べてもよいと思います。
- 委員 ・子どもたちにとっては、海水浴とかキャンプなど、家族と出かけてアウトドアスポーツを楽しむことも多いと思いますので、生活の中のスポーツ実施率もあってもよいのではな

いかと思います。

- ・総合型地域スポーツクラブについての指標ですが、本県の人口からすると15,000人は少ないと思います。ただ、クラブ加入人口を劇的に増やすのは難しいと思いますので、クラブを知っているかとか、クラブの事業に参加したことがあるかといった、段階的な指標を取り入れてみると、変化が見えるのではないかと思います。例えば、厚労省が平成25年度から始める「健康日本21（第2次）」には、ロコモティブシンドローム^(注1)が課題として取り上げられています。まずその名称を知っている人を増やすことを目標の一つにしています。総合型地域スポーツクラブについても、まずは一般の方々への認知度を上げていくことが大事だと思います。

※（注1）「ロコモティブシンドローム」とは、「骨・関節・筋肉など体を支えたり動かしたりする運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態」をいう。

- 委員
- ・柱に指標がくっついて、それが5年でどういう意味をなしてくるか想像できない。総合型地域スポーツクラブの人数増加が判断基準では、判断材料として足りない。スポーツ環境の整備も必要です。まだ案ということなので、3月までに改善したものを提案することは可能でしょうか。
- 事務局
- ・指標については、白紙のままですより事務局としての（案）を出した方がよいと思います。提案しました。あくまでも白紙のつもりで御意見をいただければと思います。
- 委員
- ・御意見がある方は、言いたいことを紙にまとめて、事務局に提出してはどうですか。
- 委員
- ・数値は、現場に合わせて事務局でとりまとめ、指標については、皆さんで話し合いたいです。
- 委員
- ・障害者スポーツレクリエーションセンターの利用者数を指標にするということですが、陸上選手には使えない施設です。僕も陸上選手で県総合スポーツセンターを使うしかないのが現状です。気軽に使える場所の設置はいつになるのでしょうか。自分も指導者を目指していく上で、場所の確保は大きな課題です。全国障害者スポーツ千葉大会の前には指導者や審判の招致を県の方と進めていましたが、担当者が異動してしまい、あの話はどこへいったのかといったことも経験し、せめて担当者の固定などを考えていただきたい。誰もカバーしきれない問題で、活動・養成の場がなくなるというのはよくないと思います。身近にかけっこから始められるようになると思います。
- 事務局
- ・担当が異動しても引き継ぎくらいはきちんとできるように、事業に差が出ないようにしていきたいと思います。人や活動場所について取り入れられることは取り入れていきます。
- 委員
- ・この計画は、体育課オンリーでなく、県全体で取り組んでいます。食育や介護、障害を持つ人のスポーツ推進についても話が出ましたが、後方にいる職員は、それぞれの専門家です。遠慮なく話してください。
- 委員
- ・障害を持つ人のスポーツの推進が、1つの施策に入っていますが、実は5つの柱全てに関わっています。たまたまスポーツをしている者が障害を持っただけで、もっと障害を持つ人全体のことを考えてほしいと思います。今は1か所でも拠点になるような場所があると嬉しいです。
- 委員
- ・障害を持つ人のスポーツ推進について、事務局より何かあればお願いします。
- 事務局
- ・障害福祉課では、第四次障害者計画を平成24年度から定めたものがございます。その中で障害のある方のスポーツの振興に関しても取り組んでいます。活動する場の提供や学校プールの活用ができるよう関係者に働きかけていくよう位置付けられています。

- 委員 ・実は、日本障害者スポーツ協会の方と話をしている、障害者の方の基本的なスポーツ実施率を示すものはありません。先程の36.8%の中には含まれていません。実施率を出す方法があれば、それを指標として生かせればと思います。
- 事務局 ・そのようなデータがあるのかもわかりません。
- 委員 ・ジュニアの方は、親御さんの意志も影響します。特別支援学校は、スポーツも充実していますが普通学校に通っている児童生徒にはそれがありません。みんながスポーツに親しむ機会がほしいと思います。紹介だけでもいいと思います。情報が伝達できればよいのですが。
- 委員 ・活発な御意見が多く出ていますが、時間がないので委員の皆さんは、さらに、意見があれば、事務局に連絡してください。

【審議事項 ② 「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」(案)について】

アンケート調査の目的は2つあります。第11次「体育・スポーツ推進計画」の実現に向け、県民のスポーツニーズに関する内容を継続的にモニタリングすることと「計画の進捗状況を把握するとともに、今後の体育・スポーツ関連事業推進のための基礎データを把握すること」です。実態把握に加えて、体育・スポーツ推進計画の進捗状況や諸事業実施後の効果を検証する手立てとしても活用します。

次に、調査期間ですが、11月から12月に実施します。対象者は、千葉県内に在住する成人男女、県内在籍の小5・中2・高2の男女で4,900サンプルを予定しています。本調査につきましては、平成24から28年度までの5年間を見据えた計画であることから、5年間継続して実施していく予定にしております。

○ 調査の枠組みについて

アンケート調査につきましては、先程の説明と重複するところは割愛させていただきます。

調査概要といたしまして、実施期間はご覧のとおりです(資料3の8ページ)。審議会終了後、アンケート内容を最終決定し、対象者に配布いたします。調査対象は、千葉県内に在住する成人男女と県内在籍の小5・中2・高2の男女ですが、その内訳は、各教育事務所880ずつと、生涯大に500を依頼し、成人3,700、児童生徒1,200、合計4,900サンプルとなる予定です。12ページをご覧ください。アンケート調査の枠組みといたしまして、A・B・Cの3つのカテゴリーに分けました。Aにあるように質問を主観的要因と客観的要因に分け、各世代の実態把握に重きを置き、必要な項目を記してあります。Bはスポーツ推進計画の5つの柱を表し、先程説明しました下位指標を掲げてあります。Cはアンケート結果と現況とを比較し、スポーツ推進計画の進捗状況や効果を確認し、さらなるステップアップへの課題を見つけ、それに取り組む策を講じるセクションに位置付けました。PDCAサイクルとしての機能を十分に果たし、本スポーツ推進計画の目標である「する・みる・ささえるスポーツを通して、元気と活力ある県民を増やす」ことへの具現化、さらには「スポーツ立県ちば」の確立を目指していきたいと思っております。

12月中には回収し、集計業務を業者に委託し、1月には第2回ワーキング部会を開いて結果を分析・考察します。報告書を作成し、第2回の審議会で御報告する予定でございます。

本アンケート調査に関しまして、委員の方々から貴重なご意見をいただければと思います。

【審議事項 ② 点検・評価を行うための指標(案)についての質問等】

- 委員 ・この調査で知りたいのは、県民の方のスポーツとの関わりの実態と、スポーツ施策に対するニーズの2つだと思います。ニーズについては、運動やスポーツをやっている

人とやってない人によって、答えがはっきり分かれると思います。だから、「①スポーツをやっていて満足している。②やっているが満足していない。③やりたいけどできない。④まったく関心が無い。」という項目などでセグメント化してから、アンケートをとるとよいのではないかと思います。かりにスポーツに全く関心が無い人にスポーツ施設の使い方についてどうこう聞いても意見は出てこないと思います。今後のスポーツ施策へのニーズの調査をするのであれば、②や③の方に詳しく聞くといいと思います。

また、何の種目をやっているのかがわかる質問があるといいと思います。「ぶらぶら歩いているのも運動だよ」と思っている人も多く、実際はそういう方々がスポーツ実施率を引き上げています。逆に、手足を振って汗をかいてこそウオーキングだという人もいます。こんなにいろいろなスポーツをこんなふうにやっていますよ、ということがわかる質的な広がりも面白いと思います。

子どもを対象とした質問紙では、大人と同じではなく、子ども向けの言葉で項目を作ってほしいと思います。「健康・体力に不安があるか」などと子どもに聞くのはおかしい。また「プロスポーツに、関心があるか」と聞くよりも、「友達どうしてジェフ千葉の試合を見に行ったことがあるか」、「ファンクラブに入っているか」などの聞き方が子どもたちは選びやすいと思います。最後は、感想めいた話になってしまいましたが、よろしく願いいたします。

- 委員 ・調査がすぐに始まってしまいますので、意見のある委員さんは、調査が始まる前に意見等詳細について事務局に伝えてください。
- 事務局 ・3月にアンケート結果を報告いたしますので、その際に御意見をいただき、それらの御意見を踏まえながら、次年度の調査項目や計画の施策に反映させていきたいと思ひます。
- 委員 ・アンケートの文言についてですが、サラリーマンという表現よくないと思ひます。
- 委員 ・調査対象に生涯大学校に通っている人たちが入っていますが、この人たちはアクティブな年配の方たちになるのですか。
- 事務局 ・アイテムをまず確保するために、生涯大学校を候補にしてみました。
- 委員 ・かなり幅広い層があるのでアンケートも期待できると思ひます。
- 委員 ・民間のスポーツ団体のように、お金を払ってもやりたいという方もいらっしゃるので、アンケートをとる対象を、民間スポーツ団体も含めてもっと広げて調べていただき、アンケートの信憑性を高くすべきだと思ひます。それが本当の数字を導くと思ひます。また、幼稚園でも公立や私立がありますが、どちらもデータがほしいということであれば、協力することができると思ひます。細かい資料が集まるといいと思ひます。
- 委員 ・お金を払ってもやる人とそうではない人の意見を比較するのも面白いかもしれませぬね。
- 委員 ・事務局がアンケートを出して、次回の審議会で結果を提案していただきます。今回、話し合った内容で、後は事務局に一任するというところでよろしいでしょうか。
- 委員 ・はい。
- 委員 ・それでは、これで議事の一切を終わります。以上で議長の任を解かせていただきます。

以上